

令和元年度第2回教育課程編成委員会 記録

日 時：令和元年 10 月 11 日（金）14:00～15:30

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館2階会議室

委 員：小川英彦(愛知教育大学教授 有識者委員)、

武石協子(社会福祉法人NUAたきこ幼児園長 保育科企業等委員)

杉浦宏幸(校長)、坂部良二(副校長)、木村節治(保育科長)、加藤由美(教学主任)

議 長：杉浦校長 (記録：坂部良二) (敬称略)

1 開会のあいさつ

副校長から開会の挨拶と出席者へのお礼がされた。

2 校長あいさつ

校長から出席者への挨拶後、この2年、昼間部で定員割れを起こしており、次年度の学生募集に向けて力を入れていること、また、法人から中期計画の作成が求められており、本校としてどのようにしていくか現在検討中であることの説明があった。さらに、進路変更や健康上の理由等により年度途中の退学者が出ており、そうした点からも学生募集が喫緊の課題であることが説明された。

3 本校の概要

- (1) 令和2年度の教育理念・教育目標等、学生便覧1ページ目に記載する内容について、校長より説明がなされた。その中で、「4 めざす学生像」「5 本校のカリキュラムの基本」「6 求める学生像」については本校における3つのポリシーに基づいて定めていることなので今後も大切にしていきたいこと、また、「7 経営方針」では、今後も学生の側に立った視点からの学生支援や教員の実践力向上に向けた取組に力を入れていくこと、キャンパス内の2園との連携をさらに強化していくことについても述べられた。さらに、「求める学生像」に伴い、学生の受け入れに際してどのような入試の在り方が良いのか検討が必要であることについても述べられた。
- (2) 令和元年度職業実践専門課程の基本情報（昼間部、第二部）情報公開データについて資料2に基づいて副校長から説明があった。本年度は、従来の基本情報に加え、新たに「授業科目の概要」と「企業等と連携した実習・演習と」の資料が加えられたことや、来年度が職業実践専門課程としてのフォローアップの年であることから、そこに向けた資料の整備を進めていくことなどが説明された。また、基本情報とは別に、全科目のシラバスや実務教員の担当教科一覧の資料も本年度から公表していることの報告があった。
- (3) 高等教育の修学支援新制度を受けられる要件の一つとして適正な成績管理が求められていることから、本年度新たに全科目について、「優・良・可・不可の人数の割合」「下位4分の1にあたる学生の点数及び全体の平均点」等についてまとめた資料を作成したことが副校長から報告があった。

- (4) 令和2年度のカリキュラム案について資料4に基づき、保育科長から説明があった。本年度は1年生が新カリキュラム、2年生が旧カリキュラムで行っているが、次年度は夜間部3年以外、新カリキュラムによって進められることの説明があった。
- (5) 令和2年度の学生募集状況に関し、9月末までのオープンキャンパスの参加状況については現在105名で有り、当初の目標達成のために残り5回のオープンキャンパスで50名ほどの参加者を期待したい等について、資料5に基づき副校長から説明があった。また、参加者のアンケートの内容から、学生の関心を高めるためにはホームページが最も有効であることから、今後さらにホームページを充実させることに力を入れていきたいとの話があった。
- (6) 学生による授業評価の令和元年度前期結果について、資料6に基づいて、副校長から説明があった。昨年後期の数値と比較すると、学生の出席率は上がっているものの、他の評価項目については同じか0.1ポイント下がっているものが多いため、この結果を真摯に受け止め、今後さらに学生の実態に応じたわかりやすい授業へと改善を進めていくことが必要であるとの報告があった。
- (7) 本年度、新たに創設された「高等教育の修学支援新制度」を受けるための学校として本校がその要件を満たしていると認められたことが副校長より報告された。

4. 協議（説明に関する質疑・ご意見）

委員…「高等教育の修学支援制度」について、他の専門学校の状況はどうか。

本校…この制度を受けるためには学生定員に対する充足率等、いろいろな要件が必要であるため申請できない学校もいくつかある。また、本校としても毎年申請が必要であるため、今後充足率の条件を満たせないという心配がある。

委員…こうした制度が受けられることはぜひPRしていきたい。

前期成績一覧にあるような成績分布が求められておるのか。

本校…その通りである。この形で成績の管理をしていくことを申請し認められているが、どのような感想をもたれるか。

委員…個々の科目については、個々の考え方があるのでそろえることは難しい。大学でも学校によっても成績の出し方は違うし、評価の基準も違っている。

委員…「失格」というのはどういうものか。

本校…授業への出席数が規定した数に満たない学生が失格となる。その場合、再度その科目を取り直すことになる。

委員…高校への出前授業などはどうしているか。大学ではよく学生を送ってくれる学校へ出かけていっているが。

本校…出前授業へ行くのは大学から声をかけるのか、それとも高校から要望されて出かけていくのか。

委員…高校から要望されて出かけていく。対象としては3年生だけではないが、進路指導の一環としてやられている。

本校…本校としても以前は行っていたが最近はなくなった。昨年度は1回高校に出かけて行って授業を行った。

委員…大学では、出前授業以外にも高校を訪問している。事務員と評議員が二人でチームを組み、夏休みに結構まわっている。

本校…本校も5月から6月にかけて学校訪問をしている。専門学校は大学よりも進路決定されるのが早いので、その時期に出かけないと遅れてしまう心配がある。

委員…出前授業や学校訪問等で説明を行い、60%の充足率は守っていききたい。

委員…今のところ、どれくらい入学者が決まっているか。

本校…AOで14名、先日の社会人入試は1名であった。現在夜間部については一人も決まっていない状況である。

委員…夜間部が少ないというのは、例年と比べてどうなのか。

本校…例年より若干少ない。本年度途中から新たに祝日の日に授業公開日を設定したり、夜間部の授業公開日を設定したりしたが、いまだ申込はない。やはり年度当初から周知していかないと難しい。

本校…ダブルスクールについてもホームページに掲載しているが、まだ反応はない。

委員…夏の合同フェアはどんな感じであったか。

本校…参加者は12名と多くなかったが、参加者に対しては2校のメリットを説明でき、また、それぞれの学校の説明もすることができた。遠方からの参加者にとっては、同じ日に2校を知ることができる良さがあった。しかし、初めての試みであったので、運営面等で反省点もあった。改善すべきことを改善し、年1回程度は継続して実施していきたい。

委員…2つの資格をとれることのメリットが高校生にどれだけ伝わっているのかが大事なことである。

委員…認定こども園では両方の資格が必要であるが、今後そうしたこども園が増えていく傾向にあることを周知したい。

本校…高校生の中では必要があれば幼稚園教諭免許は併修でも取れるという感覚になっているような気がする。本校は保育士の資格だけ取って卒業ということができないので選択の幅が少ないと思われることもある。

委員…夜間部は学生に根性がないと続けられないということもある。

委員…3部をやっているところもあるが、最近需要が増えてきているように思う。

本校…名古屋市内の専門学校でも3部を開設しているところがある。

委員…職業実践専門課程としての効果は上がっているか。

本校…効果はあるものの高校の先生方にはあまり知られていない。職業実践専門課程としてのメリットを浸透させていくことが必要だと感じている。

委員…普通科よりも就職率の高い職業科をもつ高校と連携がとれていくとよいのではないか。県外の学校も狙い目である。

本校…現在業者の力も借りて、どういったところへ働きかけていくと効果的か、様々な観点から分析しているところである。

本校…保育補助者については現在の状況はどうか。

委員…保育補助者についてはどこの園もほしがっている。例えば0歳児については規定では3人に1人の保育士であるが、現実には1人では無理である。だからどうしても補助者が必要になる。それだけ需要が多いので、そうしたこともPRしていくと、学生募集につながっていくのではないか。

委員…高等教育の修学支援新制度の活用など、この学校で工夫して取り組まれていることがどれだけ高校生に伝わっていくかということがポイントである。しっかり周知することに力をいれていただきたい。

本校…喫緊の課題である学生募集に対し、多くのご示唆をいただきありがとうございます。いただいたご意見を踏まえ、これから取り組んで参ります。本日はありがとうございました。